

発行日  
令和7年9月1日  
編集・発行  
春日井市道風記念館  
春日井市松河戸町5-9-3  
電話 0568-82-6110

# 道風記念館だより

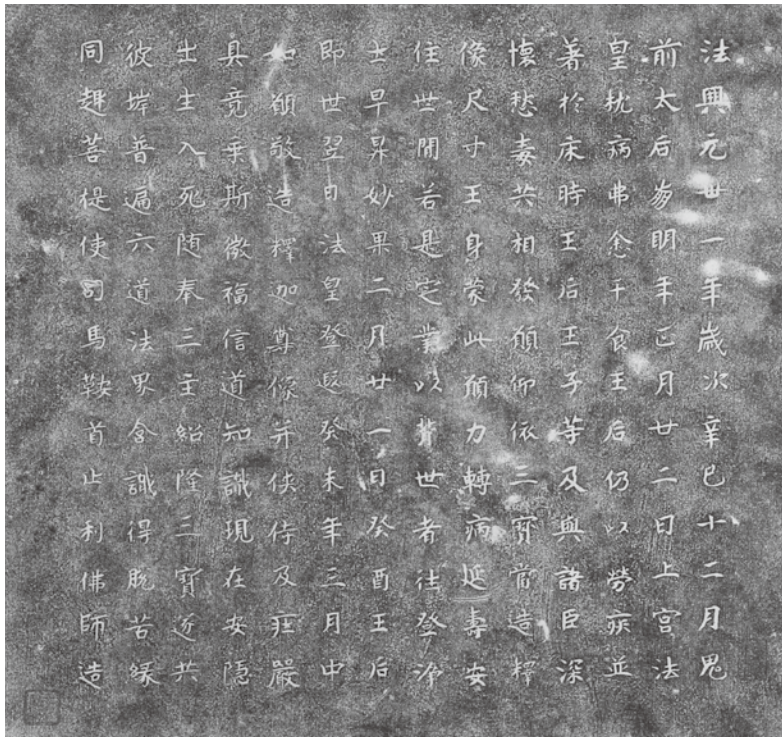
## 第76号

とうふう  
道風

展示品案内

### 法隆寺釈迦三尊像造像銘 (癸未年銘)

拓本・一幅・推古天皇三十一年(六二二)



法興元廿一年歳次

(部分拡大)

本品は、法隆寺金堂の本尊、釈迦三尊像の光背の裏面中央に刻されている文字を採拓したものです。

仏像は、光背とも金銅製で、刻された銘には鍍金が施されています。これは鑄造後に文字が刻されたことを示しますが、造像時に刻された銘文であると考えられています。

九行目にある造像の完成年の癸未年は、推古天皇三十一年(六二二)とするのが定説になっているようです。

#### 〈銘文の内容〉

法興三十一年(六二二) 聖徳太子の母后が崩じ、翌年正月、聖徳太子と后も病に陥つたので、王后王子らが諸臣とともに、平癒を願って太子等身の釈迦像造立を發願、太子と后の没後、癸未年三月に完成した。仏師は鞍作止利である。

一行十四字、十四行、正方形に収まるように整えられた銘文は、一見しただけでも整齐としてとても美しく感じられます。全体の竹まいを味わったら、次は一字一字をゆっくりと鑑賞してください。整った字形と文字間のゆたかりとした余白が高い品位を感じさせます。丸みをおびた穏やかな線質が特徴の、美しい書です。本品は、十月十九日まで開催する特別展「刻された古代日本の書」で展示いたします。ぜひこの貴重な機会にご鑑賞ください。

# 刻された古代日本の書

「のちの世につたえたい。」古代人の思いをのせて、おだやかにのびやかに刻された日本の金石文。

会期：令和7年9月5日(金)～10月19日(日) 開館時間：午前9時～午後4時半

休館日：月曜日(祝休日の場合は翌日)

観覧料：一般500円、高校・大学生300円、中学生以下無料

主催：春日井市

協力：伊藤滋氏(木籬室)・名古屋市博物館

ふるくから人は、後の世まで永く残したいことを、石に刻したり金属に鑄込んだりして記録してきました。石に刻した文字を石文、金属に鑄込んだ文字を金文といい、あわせて金石文と呼びます。

金石文は、その目的どおり永く世に残る性質があるため、今の私たちがその時代のことを知り得る重要な歴史資料です。そして書道史の上でも、書体や書風を知り、古代人の息吹が感じられる、極めて貴重な美術資料でもあります。

今回の展覧会では、日本の金石文に焦点を当て、仏像の背に刻された造像の由来や故人の墓誌、名刹の門の扁額や灯台に鑄込まれている銘など、刻されて残されてきた、日本を代表する金石文を優

れた拓本をご紹介します。

日本の書はずっと中国の書の美を追ってきました。中国には長い漢字の歴史があり、優れた金石文が多く残されていて、現在にいたるまで書法の手本として尊重され、鑑賞されてきました。日本の金石文にも、その時代時代の中国の書からの影響が見て取れます。そしてまた、中国とはちがう日本独特の趣も含んでいます。すこしまろやかなおだやかにのびやかに刻された味わい深い書です。拓本は、実物をみてもなかなか分からない部分までを写し取ります。ぜひゆっくりと鑑賞し、文字の表情を読み取って日本金石の魅力を感じていただきたいと思います。

## 講演会

日時 令和7年9月28日(日)

午後1時30分～3時

演題 「日本金石文拓本から見る書法と真偽」

講師 伊藤滋氏

(岐阜女子大学特任教授。碑法帖拓本の

研究・収蔵を行う。書齋名、木籬室。)

会場 道風記念館2階会議室

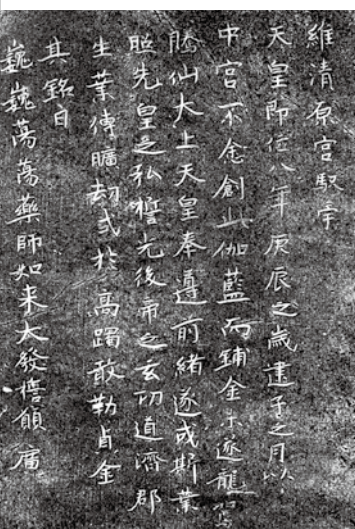
聴講料 無料(ただし観覧料が必要です。)

定員 70名(抽選)

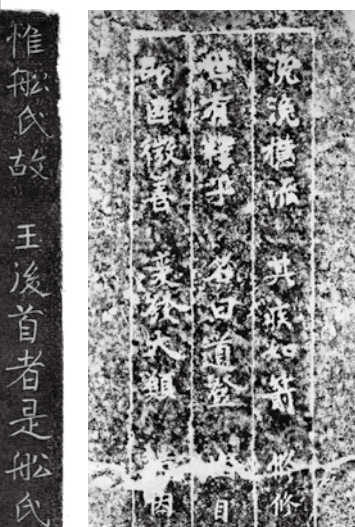
申込 9月12日(金)までに、道風記念館HPの

申込フォームか電話でお申し込みください。

**みどころ** たえば法隆寺釈迦三尊像の光背に刻されている文字、神護寺の鐘に鑄込まれている文字。実物を目にするにはなかなか叶わないうえに、見ることができてもくつきりとは見えないですよ。でも、拓本ならわかりにくいところまで見ることが出来ます。この展覧会のみどころは、日本を代表する金石文を、優れた拓本で鑑賞できることです。古代の日本人が後の世に伝えるために残した書を、ゆっくりと味わっていただきたいと思えます。



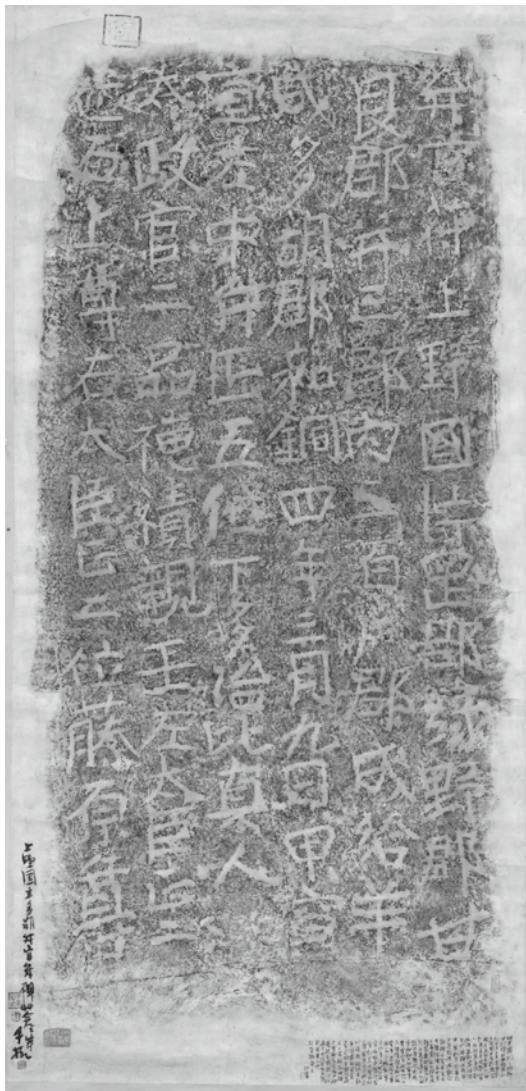
維清原宮取片



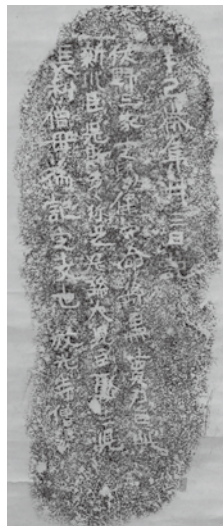
宇治橋断碑



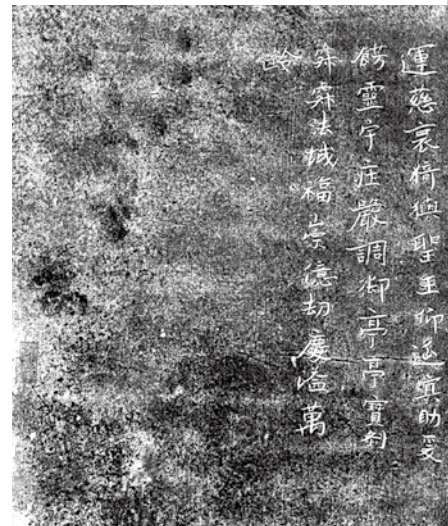
熱田神宮春敲門額



多胡碑



山ノ上碑



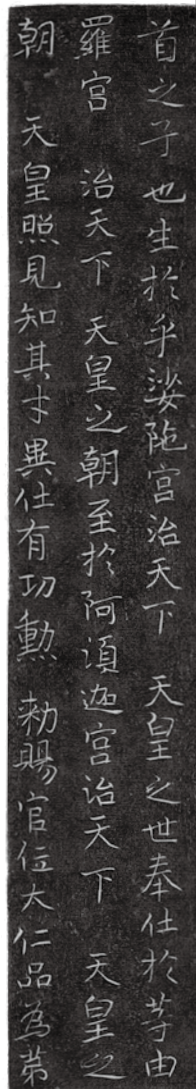
藥師寺東塔檨銘



紀吉繼墓誌銘



小野毛人墓誌銘



船王後墓誌銘



神護寺鐘銘



金井沢碑 (名古屋博物館蔵)

令和7年度 スケジュール（後期）

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
<p>特別展「刻された古代日本の書」 9月5日～10月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を代表する金石文を優れた拓本で紹介。</li> <li>・講演会 9月28日</li> </ul>		<p>企画展「藤田蒼碩の書」 10月25日～11月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春日井の書道文化振興に寄与した書家、藤田蒼碩の書を展示。</li> </ul>		<p>館蔵品展「書の魅力」 11月29日～令和8年2月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な魅力をもつ館蔵の書作品を展示し、書の鑑賞方法を提案。</li> </ul>		<p>館蔵品展 2月11日～4月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館蔵品のなかから、テーマを設けて書作品を展示。</li> </ul>			
<p>展覧会 ■■■■ 講座 ■■■■■■</p>	<p>道風記念館講座 2～3月</p>								
<p>常設展示 小野道風をはじめとする平安時代の書について</p>									

※内容・会期等を変更することがあります。

## 第44回 道風の書臨書作品募集

道風記念館で開館当初から開催している公募展です。和様の書を創始した小野道風の偉大さを改めて考えていただくことを目的の一つとしており、小野道風の書だけでなく和様の書を継承し完成させた藤原佐理・藤原行成の書も課題の範囲としています。今回も奮ってご応募ください。

### 【この臨書展の特長】

- 出品料は無料です。入選作品は、当館で裏打ちして展示しますので、表装代もかかりません。
- 審査員は、当館顧問の古筆等研究家です。一般の部は、出品者名がわからない状態で厳正に審査が行われます。
- 審査の結果優秀に選考された作品は、収蔵品として保存します。

- 臨書の対象 〈一般の部〉小野道風筆屏風土代・伝小野道風筆継色紙  
〈高校生の部〉小野道風筆屏風土代・伝小野道風筆秋萩帖
- 賞 優秀・秀作・入選
- 搬入締切 令和7年10月24日(金) 必着



※課題の部分が決まっていますので、募集要項をご確認のうえご応募ください。

※出品には出品票が必要です。要項・出品票をホームページからダウンロードするか、道風記念館へご請求ください。